

2025/02/14 株式会社アーベルソフト

総務省「令和6年度 地域デジタル基盤活用推進事業(補助事業)」を活用した 埼玉県秩父市におけるAIカメラ画像活用事業の運用を開始します(2025年3月1日～)

株式会社アーベルソフトと埼玉県秩父市は協働して総務省「令和6年度 地域デジタル基盤活用推進事業(補助事業)」に取り組み、画像+エッジ側AIのシステムを構築。2025年3月1日(土)より本稼働を開始します。

本システムは秩父市の公共施設を拠点とした自営のIoTネットワークを構築。IPカメラ(AIカメラ)を接続し画像だけでなくエッジ側AIにより人・車のデータを収集する先進的なシステムです。通信規格としては920MHz帯を利用した新しいIoT向けのWi-Fi規格であるWi-Fi HaLow(ヘイロー)を活用しています。同規格での高画質画伝送を社会実装した意味は大きく、今後街なかの可視化やタクシーの待機状況、駐車場利用状況を把握することにより秩父市の観光振興に役立ててまいります。AIにて取得したデータをもとに秩父市のポータルサイトに混雑情報を連携します。

観光客の方々は同ポータルサイトで観光地の状況を把握することができるので、秩父市としては市内観光における混雑分散化、需要の平準化を行うことにより非ピーク時の需要の底上げを期待しています。

当社は本システム開発にあたり短期間でのオフショア開発(ベトナム)を実現しました。今回の経験をサービス化し『ビューちゃんねる PLUS+』として、様々なニーズを抱える全国の自治体へ横展開してまいります。

秩父市におけるAIカメラ画像活用事業概要



01 観光・文化・スポーツ

秩父市におけるAIカメラ画像活用事業

実施体制 (主催：代表機関)	株式会社アーベルソフト、埼玉県秩父市	実施地域	埼玉県秩父市
整備する通信インフラ	無線LAN (Wi-Fi HaLow、Wi-Fi)	主な補助対象機器等	Wi-Fiアクセスポイント AIカメラシステム
事業概要	年約600万人の観光客が来訪する観光地の秩父市では、地域課題が存在する。 ①秩父神社周辺の商店街では、土日祝日の日中の観光需要が高まっている混雑時に、歩行者と自動車の接触事故の危険が伴っている。 ②中心市街地の夜間観光の需要はあるが、夜間に路線バス/車の運行は殆ど無く、鉄道も地域が限られている。また、夜間の主要な交通手段であるタクシー等の待機状況が分からず、夜間観光を不安に思う観光客が多い。 ③市街地や観光地の周辺には商業施設が集中しており、周辺道路には観光客のみならず、多くの地域住民も通行するが、観光シーズンには混雑的に渋滞が発生することが課題となっている。 そこで、以下の取組を実施し、地域課題の解決を目指す。 ➢ Wi-Fi HaLow (IEEE802.11ah) およびWi-Fi (5GHz帯) を整備、AIカメラと接続し、画像だけでなく各種データを取得する。 ➢ AIカメラで取得したデータを集約・分析することにより、効果的に公共交通の再編などの施策に活かしていく。 ➢ 混雑状況を可視化し観光客へ情報発信することで、快適で満足度の高い観光地を目指す。		

<地域課題の概要、整備する通信インフラ・ソリューション及び期待される効果・目標・成果(アウトカム)などの概要>



<秩父市様より>

秩父市の観光をめぐる課題は、「需要の平準化」です。

都心から近く観光客が気軽に来訪できる一方で、特定の時期や時間に来訪者が集中。渋滞等の待ち時間もあいまって回遊が進まず、思うような消費行動につながっていないことや観光客の満足度低下の懸念がありました。また、観光需要の波があることで雇用が安定しないなどの懸念もありました。

さらに、秩父神社参道は、歩行者と車とを分ける縁石やガードレールがないため、混雑すると接触事故が発生するリスクが高まることが指摘されていました。

アーベルソフト様と連携しながら取り組む当事業では、事前にまちなかの混雑状況を発信することで、観光客や通過自動車の分散を図り、極度な混雑を緩和する狙いがあります。また、行政施設をハブに通信ネットワークを構築する取り組みはとても新規性のある取り組みです。

アーベルソフト様からの提案は、これからの地域課題の解決や観光DXの推進、データ利活用やオーバーツーリズムの未然防止の観点でもとてもありがたいと感じています。アーベルソフト様のような事業者様と一緒にこれからも自分たちの地域からビジネスをつくり、全国に横展開していくことが必要と考えています。